

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県石巻市 石巻市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド訓	救感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
144,529	23,921	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

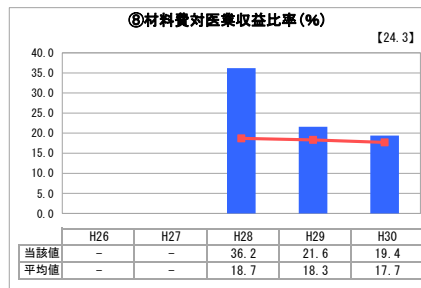
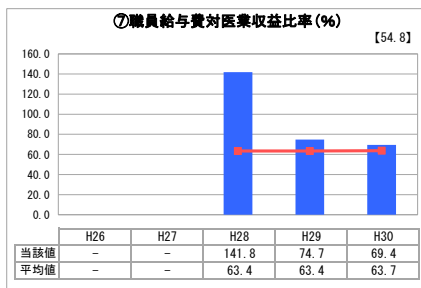
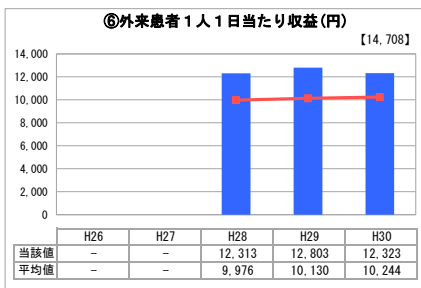
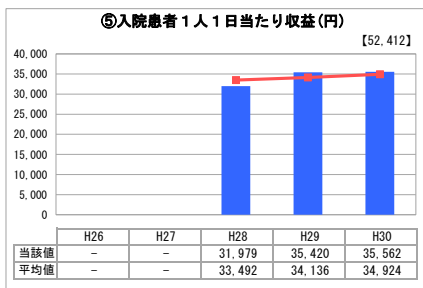
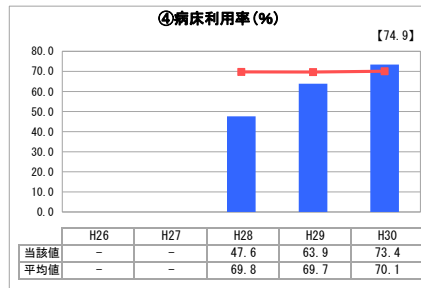
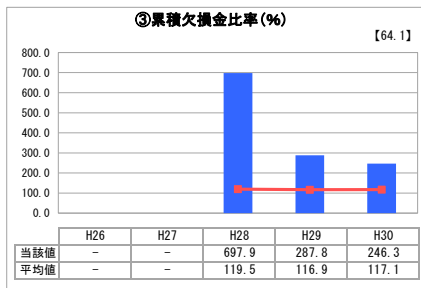
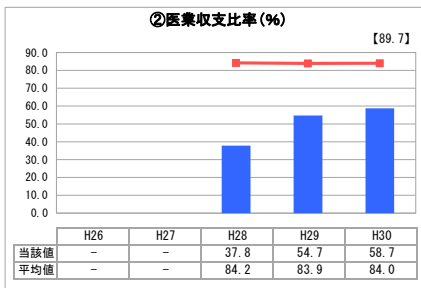
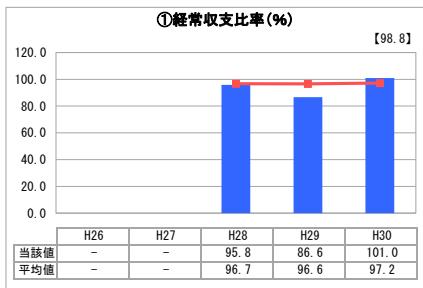
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
140	40	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	180
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
98	33	131

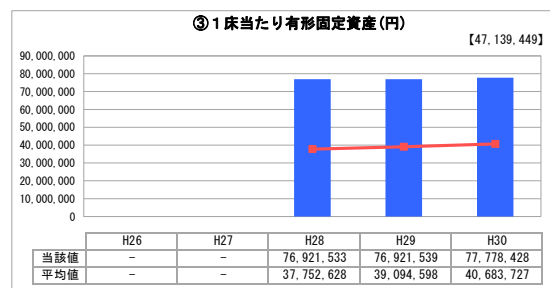
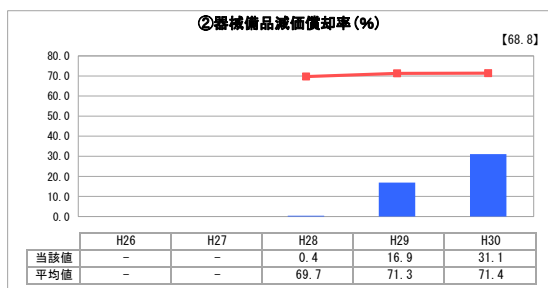
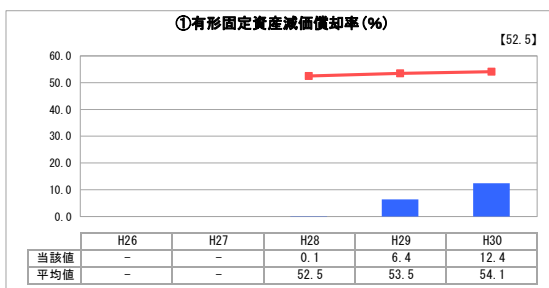
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成28年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

石巻赤十字病院をはじめとした二次、三次医療機関との連携を前提に、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に取り組み、石巻圏域における「切れ目のない医療提供体制」の一端を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度は、眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科の外来診療科を開設したほか、緩和ケア病棟や地域包括ケア病床を設置し、医療機能の充実を図った結果、入院、外来ともに患者数は前年度を上回り、医業収益についても、目標額までは届かなかったが前年度を上回る結果（+3.3億円）となった。月平均の病床利用率については、4～7月までは70%前後で推移したものの、8月以降は毎月70%を超え、年間平均73.4%（対前年+9.5ポイント）という結果となった。この病床利用率の向上が、医業収支比率、累積欠損金比率、職員給与費対医業収益比率及び材料費対医業収益比率の改善に寄与したものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

平成28年9月の新病院開院に当たって新築した病院本体及び新規購入した器械備品等の減価償却が平成29年度から始まったため、有形固定資産減価償却比率及び器械備品減価償却比率ともに低い比率となっている。

1床当たり有形固定資産については、東日本大震災以降の復旧・復興事業が本格化する時期において、全国的な建設資材の不足による価格高騰や、技術者、作業員など人手不足に伴う労務費高騰により、病院建設事業費が増大したことが大きく影響しているものと思われる。

全体総括

入院患者数が増加したことで病床利用率も増加し、外来患者数も診療科の新設で増加したものの、目標値まで達しておらず、医業収益も目標値に達していない状況であることから、平成29年3月に策定した「石巻市新公立病院改革プラン」に掲載している各種取組みを実施し、平成30年度の経常収支比率101.0%を上回るよう、収支状況の向上を目指す。

具体的には収益面において、包括医療費支払制度（DPC）の導入に向け準備を始めるほか、人間ドックや各種健診等の拡充に努め、効率的な収入確保に努めていく。

また費用面では、契約更新に伴う各種委託業務等の契約内容を見直し、経費削減に取り組んでいく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。